

大阪上本町駅(近鉄難波線・大阪線)④

井原西鶴ゆかりの地を訪ねて

谷町九丁目駅(地下鉄谷町線・千日前線)

「大阪あそ歩マップ集」
その2 No.097

近鉄大阪上本町駅

①生玉公園

昔は蓮池で、その様子が『好色一代男』に登場します。また、蓮池の茶屋で世之介と遊び仲間が集まって、日本全国の「太夫の品定め」をおこない、このとき「神代このかた。又類ひなき。御傾城の鏡。是は誰が事」と問うと皆が一斉に「夕霧より外に。日本廣しと申せ共。此君此君」と、新町の夕霧太夫こそが日本一と大絶賛しました。

②井原西鶴像(生國魂神社)

寛文13年(1673)、32歳の西鶴は生國魂神社で、俳人200人を集めて大規模な万句興行を主催しました。また延宝8年(1680)には、当地で一昼夜独吟4000句の矢数俳諧に成功。発句「天下矢数二度の大願四千句也」が伝えられています。西鶴像は平成4年(1992)に西鶴生誕350年記念として建立されたものです。



③本覚寺跡

延宝3年(1675)、34歳の西鶴は24歳の愛する妻を亡くしました。妻の死の5日後、哀しみの中で西鶴は突如として夜明けから日暮れまで追悼句1000句を独吟。西鶴はこの時、初めて自分に「速吟」の才能があることに気づきました。そして2年後の延宝5年(1677)に、生玉本覚寺で一昼

夜独吟1600句の矢数俳諧に成功。これが西鶴の矢数俳諧デビューでした。現在は谷町グランドハイツが建っています。

④近松門左衛門墓

近松門左衛門(1653~1724)の墓です。天和3年(1683)に起こった京の大経師・意俊の妻おさんと手代の茂兵衛の密通事件を題材に、西鶴は『好色五人女』(1686)の「中段に見る暦屋物語」を、近松は『大経師昔暦』(1715)を創作しています。近松おさんは取るものも取らずに家を脱出しますが、西鶴おさんは逃亡資金と今後の生活のために500両もの大金を持ち出します。不義密通は極刑という時代で、近松のおさんはすでに死を覚悟した破滅的な恋の逃避行を描き、西鶴のおさんはなんとか生き延びて愛する男性と幸せになろうと考える女性を描きました。

⑤井原西鶴墓(誓願寺)

西鶴は元禄6年(1693)に52歳で病没しました。弟子の湖梅の追

善句には「下戸なれば飲酒の苦をのがれ、美食貯へ人にくわせて楽しむ」とあり、西鶴は下戸で美味しい食物が入っても自分ではなく、他人に与えてそのさまを喜んでいと記録されています。西鶴没後、西鶴の名は急速に大坂庶民に忘れ去られ、明治に入ると、その墓石も行方不明になっていましたが、朝日新聞記者・木崎尚尚が発見しました。現在は整備され、傍らに「鯛は花は 見ぬ人もあり 今日の月」の西鶴の句碑が立っています。



地下鉄谷町九丁目駅

